

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493600066
法人名	株式会社 寿エンタープライズ
事業所名	グループホームいずみ
訪問調査日	平成21年4月8日
評価確定日	平成21年8月26日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 4月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493600066号
法人名	株式会社 寿エンタープライズ
事業所名	グループホームいずみ
所在地	横浜市泉区和泉町7600-4 (電話) 045-806-1720

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年4月8日	評価確定日	平成21年8月26日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 8日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	19人	常勤 17人	非常勤 2人	常勤換算 18.0人

(2) 建物概要

建物構造	(軽量鉄骨)造り
	2階建ての 1,2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	41,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (3月8日 現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79 歳	最低	65 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜ヶ丘中央病院、横浜寿光会クリニック、(医)康寧会、ハートケア左近山
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業主体法人に担当部があり、明確な運営方針を定めています。その方針のもと、当ホームは独自の理念・ケア目標・ユニット目標をつくり、その実践を職員全員で行っています。「全ての職員さんは明るい雰囲気満ちていて、対応も早く、面倒見が良い」と、利用者家族の声があるように、利用者への支援は、介護計画の作成から日常のケアまで良く行き届いています。家族とは懇談会を定期的に行っているほか、運営推進会議にも代表者が出席し、緊密な関係を築いています。地域・行政とも良好な関係づくりが行われています。また、医療との連携においても、夜間対応体制や重度化対応が整っています。すべての面で質の高い運営・サービス提供が行われている、緑豊かな自然に囲まれているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回は、「災害対策で防災訓練・避難訓練を定期的に行うこと」が改善事項でした。毎月1回開催の防災委員会と毎月19日にスタッフによる自主消化訓練を定期的に行うように改善しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価はユニットリーダーにも相談しながらホーム長が行っています。自己評価では改善点や課題を複数あげており、今後、取り組んでいく意向を示しています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は年4回、地域の8つのグループホーム合同で包括支援センターを会場として行っています。直近では2月に開催しました。家族、自治会役員、包括センター及び行政が参加しています。入居者状況・活動報告・出来事・事故報告・職員の異動・活動予定などの定例事項のほか、要望や助言などについて話し合い、対応を行っています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年4回、大きな行事に合わせて家族懇談会を開催し、状況報告や要望・質問に対応しています。直近では3月のひな祭りの際に開催しました。平均すると10名程度の方が出席されます。その際に意見・苦情・要望などを聞いています。その他、苦情窓口を設置し、契約時に説明しています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に準会員として加入し、夏祭り、運動会に参加しています。今年度は自治会の獅子舞保存会の獅子舞をホームに招いて、喜ばれました。近隣の農家の方々とも顔なじみになっており、野菜をもらったり、声かけをしながら付き合いを深めています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営方針のもとに、開設時にスタッフが話し合っ てホーム独自理念を定めています。その理念に沿って ケア目標10カ条及びユニット目標も掲げています。法 人の方針の中に「地域から応援していただける施設づ くりをする」とうたい地域との関係重視の姿勢を明確にし ています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる	理念は玄関と事務室に掲示しています。ケア目標とユ ニット目標も事務室に掲示しています。職員にはコピー を渡して周知をはかり、日々、理念・ケア目標・ユニッ ト目標を意識しながらのサービス提供ができる環境をつ くり、実践に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自 治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地 元の人々と交流することに努めている	自治会に準会員として加入し、夏祭り、運動会に参加 しています。今年度は自治会の獅子舞保存会の獅子 舞をホームに招いて、喜ばれました。近隣の農家の 方々とも顔なじみになっており、野菜をもらったり、声か けをしながら付き合いを深めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具 体的な改善に取り組んでいる	法人のグループホーム担当部長、ホーム長は評価の ねらいや意義についてよく理解しています。自己評価 においては改善点や課題を複数あげており、今後、取 り組んでいく意向を示しています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	運営推進会議は年4回、地域の8つのグループホーム 合同で行っています。直近では2月に開催しました。家 族、自治会役員、包括センター及び行政が参加してい ます。入居者状況・活動報告・出来事・事故報告・職員 の異動・活動予定などの定例事項のほか、要望や助言 などについて話し合い、対応を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には区の担当課課長が出席します。また区の職員の方がホームに時々来訪したり、ホームの空き情報を問い合わせてきたり、連絡は密に行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月、金銭出納帳や担当係とホーム長からの近況報告を送り、状況報告を行っています。また家族来訪時にも状況をお知らせしたり、要望などを話合ったりしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回、大きな行事に合わせて家族懇談会を開催し、状況報告や要望・質問に対応しています。直近では3月のひな祭りの際に開催しました。平均すると10名程度の方が出席されます。その際に意見・苦情・要望などを聞いています。その他、苦情窓口を設置し、契約時に説明しています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新たなユニットが2階に開設されたため、半数近くの職員が新ユニットに異動しました。そのため新規職員を採用しています。異動による顕著な影響はありませんでした。新しい職員が入る際は、事前に利用者へ報告するとともに、なるべく早くなじむよう前任職員が指導しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人がスキルアップのための年間研修計画を定めており、参加しています。感染症への対応やレクリエーションプログラムなどのテーマの研修に参加しています。新任職員には新人研修への参加の他、OJTを行っています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域プラザにおいて8つのグループホームが年1~2回、32のグループホームが年2回連絡会を行っています。近隣のホームと行事の際に行ったり来たりして、交流を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に本人、家族に何回か見学してもらい、納得して入居を決めてもらっています。入居後も家族に頻繁に来てもらい、入居後の様子を見てもらったり、家庭での情報をもらったりしながら、少しずつ馴染めるよう努めています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や漬物の作り方等を利用者から教わり、日々の生活に役立てています。またお好み焼き、餃子を利用者と一緒につったり、家庭菜園では、サツマイモ、ジャガイモ、大根等を作り、収穫も一緒に楽しんでいます。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>1人ずつ、個別に話をしながら希望を聞き、また家族の来訪時には、近況を報告しながら意向を聞き、可能な範囲で希望に添えるようにしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネージャー、居室担当でケアカンファレンスを行い、課題、援助内容等を話し合い、介護計画を作成しています。また本人、家族からは予め希望を聞いておき、それを基に介護計画を作成しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に見直しをしています。入院したり、著しい状態の変化が見られた時も、その都度関係者と話し合い、介護計画の見直しをしています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっていますので、24時間看護師と連絡がとれ、緊急時はほとんど看護師が来てくれ、管理者も駆けつけるので、安心して生活できます。また庭で家庭菜園をしており、定期的にボランティアに来てもらい、利用者も一緒に野菜作り、収穫をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に、家族付き添いで受診している利用者もいますが、ほとんどの利用者は、協力医療機関から主治医の往診が月2回、看護師の訪問が毎週あり適切な医療を受けています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に「看取りに関する指針」を説明し、「重度化した場合における対応に係る指針への同意書」をもらっていますが、現在該当者はいません。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねないよう、トイレ介助をする時も他の利用者に目立たないような対応をし、言葉遣いにも気をつけています。個人情報は外部に漏らさないよう、取扱いには注意をしています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを大切に、できるだけ本人のしたいことが出来る様、職員は心がけています。ゲームをしたい利用者には職員が相手をしている様子がみられました。また散歩、買物もその都度声をかけ、希望に添って支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は委託業者から届き、職員が食事作りをしています。テーブル拭き、下膳、食器洗いなどは利用者到手伝ってもらっています。月3回位は、利用者の希望に添ったメニューにし、一緒にお好み焼き、カレーライス、いなり寿司等作っています。また年2回は利用者の希望を聞き外食を楽しんでいます。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則入浴の曜日と回数(週3回)は決めています。体調や希望を考慮しながら、対応しています。入浴しながらゆっくりと話を聞くようにしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で掃除、洗濯物たたみ、フロン干し、漬物作り等の役割分担をしています。また利用者がキルティングの手さげ袋を作ったり、刺繍で名前を縫ったり、特技を生かすことで張り合いのある生活を送っています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2～3回、天候や体調を考慮しながら散歩に出かける支援をしています。散歩に行けない利用者にはホームの周りの庭を歩いたりして外気浴を心がけています。最近桜見物のドライブに交代で行って来ました。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠していません。フロアーの出入り口は開閉時に鳴るよう工夫されており、利用者の出入りには、職員が注意をはらっています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内防災委員会を設置し、情報収集と職員の防災意識向上を図っています。防災・防犯用品の購入も行っています。区の火災予防協会への加入をしています。毎月19日にスタッフによる消化訓練も行っており、対応強化を図っています。		既に十分な対応をされていますが、夜間災害時での避難のためには近隣からの協力が不可欠となりますので、消防署や自治会からの協力を得て、夜間を想定した避難訓練を企画し、実施されることも期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材、メニューは委託業者から届いたものを調理していますが、食事摂取量、水分摂取量は水分チェック表で毎日チェックしています。体調の悪い利用者には、きざみ食、ミキサー食等の対応をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新幹線が近くを通過しているため、音と若干の揺れについては契約時に利用者の了解を得ており、慣れてくるとそれほど気になりません。リビングは、明るく畳敷きのコーナーや、ソファも複数あり居心地よい空間になっています。行事写真や手作りの飾り付けなどもあり、温かい共有スペースとなっています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室(洋室6畳程度)は、利用者の好みに応じて様々に整えられています。使い慣れた机・イス、タンスなどが置かれ、家族の写真や自分の作品などの飾り付けもされて、利用者の生活や趣味が感じられます。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいずみ
(ユニット名)	かぼちゃくらぶ
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区和泉町7600-4
記入者名 (管理者)	畠山京子
記入日	平成 21年 3月 8日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人を尊重し安心して過ごせる環境づくり」と「地域に愛されるホーム作り」をホームの理念としてかかげている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や行事の立案等で、理念の実践と方法について話し合いを持っている。また、理念をあちこちに貼り日々目にするようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や家族懇談会を通して理解していただくようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	周囲の畑を作られている方を行事にお誘いしている。また、散歩中に近隣のお庭を拝見させていただいたり、野菜や花を分けてもらったりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への入会、運営推進会議での情報収集、主治医や訪問看護師からの情報をもとに、地域の催し等に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同じ自治会にあるグループホームと連絡を取り合い、お互いに行事へ招待したり訪問したりしている。また、協力出来る事を相談している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を共通理解すると共に、前回の外部評価で、ご意見を頂いた水分量のチェックと記録等、日々の介護の改善を行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者の実態や行事等の取り組み、今後の課題等を報告し、頂いた意見を基に、次の行事立案や日々の取り組みに生かすようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	泉区グループホーム連絡会への参加、行政職員や地域包括センター主任ケアマネの訪問時を利用しての相談等を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用を希望される方には、医療機関等への相談や依頼をご家族に代わって行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	処遇カンファレンスの中や、日々のミーティングの折に虐待による弊害を確認し合い、防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>問い合わせから契約まで、見学時や電話での説明に時間をかけ、疑問や質問にはいつでも応じることを伝えた上で、充分時間をかけて検討して頂く様お願いしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情にはいつでも傾聴し、職員間で話し合いを設け、必ず回答をするようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月毎の請求書に管理者からと居室担当者からとの近況報告と、金銭報告を添付すると共に、家族の面会時にも気付いたことを報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話での双方からの連絡時に質問や希望をお聞きして、職員間で情報を共有して、改善に努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議だけでなく、日々のミーティングや会話の中で、意見を出しやすい雰囲気作りを図って、気付きや提案が生かせるようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>シフト上無理の無い職員数が確保できている。また、職員間で協力しあえる心構えが出来ている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在異動は行っていない。もし離職者が出た場合は、理由を説明し納得していただき、また新しく入職した職員との交流やレポート作りに努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染対策研修会や応急手当研修会等へ参加し、その報告を基にホーム内で研修をしている。また、働きながらの資格取得にはシフト作成において支援している。更に、必要と認められた研修に関しては費用の負担を行っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や地域包括支援センターのケアマネ連絡会に参加して情報交換をすると共に、近隣のグループホームの職員との交流や情報交換を図っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設訪問時やホーム長会議を利用して、職員の状況把握に努めると共に、ヒアリングも行い意見の言い易い環境づくりを図っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な人事考課を行い、上長が評価を実施している。また、管理者の推薦を受けて、会社負担での研修の機会を設けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学時や実調時に、複数の職員で対応し、時間をかけてご本人の気持ちを聴くようにしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	問い合わせ時から、丁寧な対応に心掛け、見学時には時間をかけてお話を聞くようにしている。また、ホーム側からも細かい質問をして、相互の理解を深めるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態とご家族の置かれている状況を理解した上で、ホームで出来る事できない事をお話して、他の選択肢のあることなどお話している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ずご本人にも見学に来ていただいて施設の内外をご案内し、入居を希望して下さるかどうか確認している。また、入居にいたっては、事前に職員間で情報を共通理解しておくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の出来る事はやって頂き、お知恵は伝授して頂き、そこから話題もはずみ、日々の家事仕事や行事に役立たせてもらっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	問題点が生じた場合には連絡相談を密にし、ご家族とホームが役割分担しながら問題解決に向けて取り組んでいる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に密に連絡を取りご本人のお気持ちを伝えるようにしている。また、どちらも心配や誤解が生じないよう心配りをしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方の話題や思い出話に耳を傾け、再会や外出が図れるように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が調整役を買って出たり、状態を説明したりして、少しでもお互いに理解していただける様に務めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	該当者無し。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人ひとりの思いや希望を良く聴き、他の方との兼ね合いも考えて可能な範囲で、お一人ひとりの希望に添うようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族にお聞きして、入居にいたるまでの生活歴や身体の状況の把握に努め、入居されてからも言葉かけを絶やさず情報の収集を行っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	細かな記録を取ることを心がけ、小さな変化の発見や気づきを大事にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの援助希望や援助計画も参考にして介護計画を立てている。ケアカンファレンスを頻繁に行うことにより、新しい介護計画作成に反映させている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行っているが、状態に著しい変化が生じたときには話し合いを儲け見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護記録は個別のファイルに詳しく記入している。更に、毎朝と毎夕の申送りでは情報交換と共通理解を図っている。また、申送りノートにおいての伝達も大事にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっていることで、看護師や主治医との連絡相談が可能で、救急対応時にも看護師の協力を得られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	音楽や家庭菜園等で、定期的なボランティアの方の援助が受けられている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの利用は行っていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネ連絡会への参加や主任ケアマネの訪問、運営推進会議への招待等を通じてご意見を頂いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望やご本人の状態により、ホームの主治医以外への受診も支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状態により認知症の専門家への受診が必要になった利用者には、家族に同行して受診に立ち会ったり、場合によっては、送迎をする等している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を活用して、看護師に連絡相談しながら、日々の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者がいた折には病院関係者との情報交換や相談を密にしていた。今後、入院者が生じた場合にも同様に対処していく。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	見取りの方針を文書化し、ご家族にも提示しているが、該当される方は現在は無し。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医や行政の指導を受け、対応できない病気の種類等や援助内容の検討をしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	該当者無し。今後、他施設への入居等が生じた場合には、十分な情報交換をして、ご本人やご家族の援助をしていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いには注意をしている。また、排泄・入浴・更衣時には特に声掛けにも注意をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の理解度に合わせてお話をしているが、人生の先輩に対して失礼の無い言葉かけを心掛けている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者本位の立場に立って、あくまでもお一人お一人の気持ちや状態を尊重した支援を心掛けている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみやおしゃれに関しては、お一人お一人の自由な選択に任せている。理美容はご自由に選んでいただけるが、希望される方には訪問理美容を受けてもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>下膳と後片付けを手伝ってもらっている。また、簡単な調理の下準備や漬物をお願いすることもある。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒とタバコは健康維持のため遠慮してもらっている。その他の飲み物はお好き物を準備している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンをつかみ、失禁を防ぐ為の声掛けを図ることにより、不快や心身へのダメージを防ぐように務めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	不公平感をもたれない為に入浴の回数と曜日は決めているが、体調や希望を考慮しながら、対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	冷暖房の調節、足浴や湯たんぽ、ホットタオル、シップ等一人ひとりの状態と好みに合わせて安眠がとれるよう支援している。また、身体の状態や気分によっては、居室で昼間も休んでもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の清掃や買い物、家庭菜園の野菜収穫等のお手伝いをしていただいている。また、散歩や外気浴を勧めている。月毎の行事も幾度か計画し、変化と気晴らしを楽しんでいたできるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望により職員が同行して買い物をされたり、外食会に出かけられたりしているが、現金はホームでお預かりしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の希望や体調を見ながら、散歩や外気浴、ドライブ、買い物等に出かけられるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食やスーパー銭湯、大型店で買い物、神社等へお誘いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されている方がいる。また、手紙の投函をしたり、相手の方の了承を得た上で電話しお話ししてもらったりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	度々の訪問を依頼し、訪問していただいた折には、自然体で出迎え歓迎の気持ちを伝えるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。夜間のみ、出入りに施錠している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「防犯上施錠しています」の張り紙をしているが、玄関は開錠している。居室は入居者が中から施錠していらっしゃる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は必ずノックし声掛けして居室に入るようにしている。夜間もドアは閉めた状態で、1時間毎の巡回をし安全を確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ等は事務所預かりにして必要なときにお渡ししている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	お一人ひとりの心身の状態について職員間で話し合いをして考えられる危険を探り防止策を検討している。また、ヒヤリハットを基に事故防止に役立てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	危機管理マニュアルを作成している。また、救急法指導会への参加を定期的に行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月19日を防災の日と決めて、状況を設定して避難訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前から、入居の為の相談をする上で、起こりうる事故や病気の悪化についてもお話している。入居されてからは状況を小まめにお知らせすると共に、今後の予測と対応についてもお話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前午後のバイタルチェック、食事量、排泄の状態等を判断し、体調の変化を見逃さないように務め、何らかの変調あれば、主治医や訪問看護師に連絡を取り早めに受診するようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際の処方箋を誰もがすぐに見られるようにファイルしている。又、処方内容が変わったときには、業務日誌へ記録すると共に送りノートにも記載して、共通理解するよう務めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の体操や歩行を促すと共に、毎日の水分量の記載と確認、便秘解消や予防に良い食事内容や食物の摂取に努めている。便秘長引く場合は主治医の指示を受けて下剤を使用している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアはどなたにもできる範囲でやって頂き、不足しているところを介助して行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の量を記録に残し変化を確認している。体調や歯の状態に合わせて、1食ごとに食事形態を見直している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は職員も受けている。感染対策委員会を設けている。11月～4月はノロ対策を実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は外注しているが、冷凍或いは冷蔵保存して、調理充分加熱している。生の魚介類は出していない。まな板包丁は使用のたびに消毒し、台所は曜日ごとに場所を決め清掃している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の自然にとけ込むように、木々や花を置いている。また家庭菜園も作り、眺めて楽しめるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員で作ったその月らしい展示物等を飾り、より親しみやすく感じられるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチなども置き自由に利用していただいている。また食卓の座る場所は決まっているが、食事以外の時は好きな場所に座っていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なもので無ければ、ご本人とご家族に思いや希望を尊重して、お好きな者を持ち込み配置してもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気扇を使用している。温度調節は利用者の体調や希望に添って調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共通部分の浴室トイレ廊下には手すりを設け転倒防止を図っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	名前や名称の表示やお知らせの展示をすることにより、混乱を防ぐようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外気浴や散歩、家庭菜園の収穫等を楽しんでいただいている。又、広い駐車場は、行事やお茶会にも利用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然豊かな環境の中で、陽光溢れるリビングで、思い思いに設えた居室で、お一人お一人が自分のペースで生活して頂けるように支援している。生活暦や個性、好みの違いを尊重して、画一的な支援にならないように配慮している。また、穏やかながらも変化の乏しい毎日にならないように月に数回の行事を取り入れたり、ドライブや買い物で気晴らしをして頂くよう心掛けている。さらに、入居者の安全と健康を守る為、日々のBT測定のチェックや主治医・訪問看護師との連絡相談に力を入れている。体調の変化や体調不良の訴えあるときには、早めの受診を図っている。